

CLPで 魅力あるクラブに

茅ヶ崎 山口 利通

*クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の内容を私なりに要約すると「称賛されるプロジェクトを通じて、魅力あるロータリークラブを地域社会に広報し、会員増強につなげること」であると思う。

従来の単年度主義では、より充実した魅力あるプロジェクトは計画できない。従って、長期的なプロジェクトをつくり、地に足の着いた魅力あるものにして地域に発信、その存在感を高める必要がある。

るのではないだろうか。同時に、多くの機会をとらえて、クラブの広報を広く地域社会に行う必要がある。このことが、まさに会員増強につながる最適な手段となるのである。

以上のことから、CLPは、従来のロータリーにみる単年度制から継続制へ、行動の理念については陰徳から社会に対する広報の重視への軌道修正と思われる。これらの変化は、とりもなおさず会員減少がその根底にある、と言わざるを得ない。まさに「数は力なり」で、少数では現状を維持するだけで、そのエネルギーを使ってしまうのではないのか。そして、会員を増強する最適な手段は、クラブを魅力あるものにするのである。では、クラブの魅力とは何だろうか。「あの人は魅力がある」とはよく言うが、何がそう言わせているのであろうか？

それはその人の日常の行動が称賛に値するものだからではないだろうか。従って、ロータリーもその活動が一般に称賛されるようになれば、魅力あるクラブになり、ひいては会員増強につながっていくのではないだろうか。今後、ロー

タリークラブはしっかりとした長期のプロジェクトをつくる必要がある。

（第二七八〇地区 神奈川県 食糧品MD）